

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472800909
法人名	中央ケアサービス株式会社
事業所名	なでしこ大紀
所在地 (電話番号)	度会郡大紀町崎181-4 (電 話) 0598-74-0745
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 3 月 25 日(金)

【情報提供票より】 (H20年3月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 3 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 10人, 非常勤 9人, 常勤換算 11.2人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り
	1 階建ての 階 ～ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	63,000 円～
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(90,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 300 円	昼食 450 円	
	夕食 450 円	おやつ 200 円	
	または1日当たり 1,400 円		

(4) 利用者の概要(3 月 9 日現在)

利用者人数	18 名	男性 10 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	8 名	要介護4	6 名
要介護5	名	要支援2	1 名
年齢	平均 82 歳	最低 70 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮原医院 ひがし歯科医院 大台病院 報徳病院 滝原診療所
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「いつでも、だれにでも立ち寄って欲しい」との管理者の強い思いを反映して、住環境も職員も開放的である。自然光が差し込み爽やかな風が通るリビングは利用者の身体状況や生活状況に合わせ家具やソファ(冬にはこたつ)の配置に工夫がみられる。利用者個々に合った過ごし方を尊重しており、時の流れが緩やかである。家族の訪問機会も多く連携も密であるが、遠方に暮らす家族には毎月、「たより」と電話で近況を報告し、信頼関係が途切れることが無いように配慮している。また地域とは行事参加、体験学習の受け入れ、災害時隣人への協力要請、事業所内で行う習字教室の近隣住民への開放等交流も盛んである。今後も専門性を活かした相談活動等を通じ、地域における認知症ケアの拠点としての役割を果たされることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	① 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回改善点として指摘のあった項目については全体会議でも検討、運営推進会議にも報告し、既に改善済である。また指摘項目には上がっていない小さな課題についても改善に向けた取り組みが行われている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ② 管理者はサービス評価の意義を理解し、職員の意見も聴取しながら自己評価を行った。その課題については全職員で共有し、協力しながら改善への取り組みが行われている。 ③ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議では事業所の現状や課題の報告に留まらず「終末期ケアの取り組みについて」、「消防法の改正とその対応について」、「防災対策について」等重要なテーマについても意見交換が行われている。委員も「広く理解者を得たい」との思いから、地域代表については幅広く参加要請を行っている。 ④ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の暮らしぶりや健康状態について「たより」や電話で情報提供し、推進会議や行事参加等機会を捉えて声を掛け、気軽に相談できる様に配慮している。玄関にはご意見箱を設置し、窓口となる担当者を配置している。また第三者機関への相談が可能なことについても説明している。 ⑤ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会、学校、文化協会等の行事には積極的に参加し、体験学習、地域ボランティアの受け入れ、事業所内習字教室の地域住民への開放等、開かれた事業所の実現に向け積極的な取り組みが行われている。今後とも認知症ケアの拠点として地域に貢献されることを期待したい。
------	--

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	環境の良い住み慣れた地域で、人としての尊厳を保持し個性を失うことなく、ゆったりとした生活を持続するための独自理念をつくり上げ、そのことを実現するための事業運営が行われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は常に理念を意識しながら話し合いを持ち、利用者満足度の向上のため、理念の実践に向けた取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域、学校、文化協会等の行事には機会を捉えて積極的に参加している。体験学習や地域ボランティアの受け入れ、事業所内習字教室の近隣住民への開放等、地域との交流を活発にするための努力がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はサービス評価の意義を理解し、職員の意見も聞きながら自己評価を行っている。またその課題については全職員で共有し、協力しながら改善に向けた取り組みが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所の現状や課題の報告に留まらず「終末期の考え方と体制」、「消防法の改正とその対応」、「防災対策」等重要なテーマについても活発な意見交換が行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の考え方や実態を知ってもらい、その課題を共有してもらうため、機会を捉えては町役場や広域連合に出向き、情報交換を行い、お互いが気軽に相談できるような関係づくりに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常の暮らしぶりや健康状態、預かり金の収支明細等については「たより」や写真と共に定期的に送付している。面会時にも近況報告をしているが、来所出来ない家族には、電話で報告する等、常に連携を保っていけるよう支援している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事への出席や面会の時に声掛けを行い、気軽に相談が出来るような雰囲気作りを行っている。苦情や要望についても窓口となる担当者を決め、ご意見箱も設置している。また直接いい難いことについては外部機関を利用する方法もあることを説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職時には利用者の不安を与えないよう配慮しているが、利用者、職員共に地域の出身者が多いのでその影響は少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部機関主催の研修会については研修情報を提供し参加を奨励している。受講後には職員会議での報告も行われている。資格取得の研修についても勤務ローテーションの変更等応援体制が取れるように配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ加入し、主催の交流会や勉強会に参加している。また個々にも見学や情報交換を行い、助け合いながら質の向上が図れるような取り組みを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の見学や体験入所を通じて、職員や環境に徐々に馴染んで貰えるよう配慮し、納得した上で利用していただけるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の趣味や得意なものを理解し、一緒に行動することにより利用者から学ぶ気持ちと感謝をつたえている。また利用者間においても相互に助け合う関係が築かれていくよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には利用者・家族から希望や意向をしっかりと聞き、日々の生活の中で把握した情報は個人ファイルに記録し職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成者の考え方だけによる計画にならないよう、利用者・家族から希望を聞き、現場スタッフの意見も取り入れながら、利用者の視点にたった介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月毎に計画遂行状況や効果などの評価を行い、利用者・家族に状態の変化等を説明し、意向も聞きながら見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への受診対応、ふるさと訪問、家族からの各種相談等、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者・家族と相談し、利用者の意向に副って受診出来るよう医療機関を定め対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として「終末期における対応方針」を定め、家族と重度化した場合の話し合いを行っている。またその意向に副った支援が出来るように医療面での協力体制も整備している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライドを損なうような声掛けや態度は極力取らないよう全体で話し合い実行している。また個人情報についても利用目的を明確にし、同意書を取得する等慎重な取り扱いがおこなわれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所として一日の流れはあるが、利用者一人ひとりの体調や気分に合わせてスケジュールやメニューを変更している。常に利用者の希望を優先しながらその日、その時を大切に支援を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒につくった野菜や地元の新鮮な魚を取り入れ、利用者の好みにも配慮しながら献立を工夫している。食事の準備や後片付け等、職員が一方的に行うのではなく、利用者の意思や気持ちを大切にしながら手伝ってもらい、前向きな姿勢を引き出すよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により入浴を楽しめるよう計画している。毎日の入浴、夕方(6,7時)の入浴、足湯、背中流し、嫌がる利用者には無理強いはいしない等、一人ひとりの希望やタイミングにより入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作り、食事の準備や後片付け、カラオケ、詩吟等得意な分野で力が発揮できるよう感謝と励ましを忘れず生きがいや喜びとなるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望や体調にもよるが散歩、買い物、銀行、外食や喫茶店、ドライブ等出来る限り希望に副えるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は居室や玄関に鍵を掛けない暮らしの大切さを理解しており、そのことを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	訓練は年2回、消防署の協力を得て行われ、「緊急時対応マニュアル」も整備されている。また21年4月の消防法の改正に備えた検討も既に行われている。	○	更に万全を期すため夜間想定避難訓練等、開催されることを期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みも取り入れ、旬の物を使い、栄養バランスやカロリー摂取量を考え献立を作成している。血糖値が高い、嚥下に障害がみられる利用者には量で調整する、栄養補助液を利用する等配慮している。また水分についてはいつでも補給できるよう準備されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広くゆったりとしたリビングには明るい日差しが差し込み、玄関や居室からは山々の緑と花壇の花々を望むことができる。また室内のいたるところに花が生けられ季節を肌で感じるすることができる。ソファのテーブルに足を上げ居眠りを楽しむ男性陣の姿が印象的であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品を持ち込み、写真や家族との約束事を掲示するなど、前からの環境を出来るだけ変えることの無いよう配慮し、安心してゆったりとした時間が過ごせるよう支援している。		